

# ワーカーズ

http://www.workers-net.net/  
mail workersnet@workers-net.net

毎月1日発行 1部150円 半年1000円 (郵送)  
PDF判 年1200円

郵便振替 00180-4-169433 (ワーカーズ社)

2022/1/1 626号



## 今号の内容

- ・日本国民を待つ過酷な運命、堪えるのか抗うのか? ②③
- ・《新しい資本主義》対置すべきは《アソシエーション社会》 ③④⑥
- ・読書室『賃労働の系譜学』 ⑥⑦
- ・本の紹介・・・『海をあげる』(上間陽子著作) ⑦⑧
- ・何でも紹介《私の来し方行く末》 ⑧⑨
- ・私がアソシエーション社会を確信したとき ⑩⑪
- ・読者からの手紙 ⑪⑫
- ・大阪カジノ土壤改良に800億円負担しようとする維新! ⑫
- ・川柳2022/1 ⑬
- ・コラムの窓・・・ ⑬
- ・色鉛筆・・・ ⑭

# コロナ禍で疲弊する世界経済と労使関係の危機

新型コロナ感染症危機は、世界と日本の理由だ。

本を疲弊させている。

当初エコノミスト達は「コロナ禍が過ぎれば世界経済はV字回復するだろう」と楽観論を振り撒いた。「リーマンショックの時とは違う」というのがその理由だ。

あの時はサブプライムローンという金融システムに内在する欠陥が露呈したのだ。だが、今回は感染症という「自然災害」と「経済外的」要因による「需要の落ち込み」が原因だ、と。

だから、コロナ禍が過ぎ去り需要が戻ってくれば「V字回復」する、あるいは「J字回復」くらいは期待できる、というわけだった。

だがここへ来て世界経済は、こうした楽観論をあざ笑うように、当初予測しなかった「変動」に見舞われている。

もちろん変異株が次々に登場し、第四波・第五波と世界を駆け巡っていることもあるが、さらに深刻なのは供給システムの不調だ。

パンデミックに伴う都市ロックダウンで、中国をはじめとしたサプライチェーンが寸断された。その修復がチグハグにしか進まないため、コモディティ価格(原油・大豆・銅・鉄・半導体)の急騰が起きている。

海運業が「一人勝ち」しているくらいで、ほとんどの製造業やサービス業で、企業物価の高騰を消費物価にそのまま転化できず、ジリジリと収益を押し下げている。

いつか来た道、「スタグフレーション(インフレと不況の同時進行)の足音が近づいているのが実態なのである。

そしてそれは必然的に労使関係の危機をもたらさざるを得ない。しかも、かつて石油危機を乗り切った(と日経連が豪語した)「労使の安定帯」は、今は見る影もない。階級構成の在り方が、当時と今とは大きく違うのだ。

とりわけコロナ禍に直撃された非正規労働者階級(家計自立型)は、飲食店の自粛・廃業、派遣会社の雇止めなどで、失業や生活困窮、部屋代も払えずネットカフェ難民・ホームレス化の淵に追い詰められ、貧困ビジネスが待ち受ける酷い状況に直面している。

平均的な正規労働者階級も、雇用調整助成金で何とか維持されてきたが、それも先細りつつあり、賃金切り下げや人員削減が迫っている。航空会社の出向、タイヤメーカーの転籍、自動車会社の減産等、「リストラ」が相次いでいる。

さらに管理職・技術職ホワイトカラーなどの新中間階級も安泰ではない。大企業は多くは近い将来の経営環境激変を見越して、業態スリム化へ向け「希望退職」の募集年齢を四十歳代まで引き下げている。

あらゆる側面から労使関係は「大危機」に向かっていることを、我々は直視しなければならぬ。労働者階級の新しい連帯の在り方が問われている。

(冬彦)



「世界大恐慌(1929年)での米ノースカロライナ州でのストライキの様様。一時的だとしても、新型コロナで職を失う人の数は膨大になりそうだ(写真:AP/アフロ)



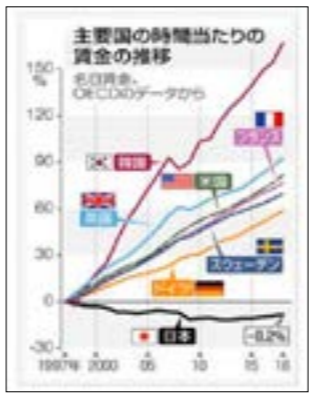
# 日本国民を待つ過酷な運命、堪えるのか抗うのか？

世界の財政拡大と金融緩和政策は、コロナ禍と連動した大不況を経て一段と加速してきた。

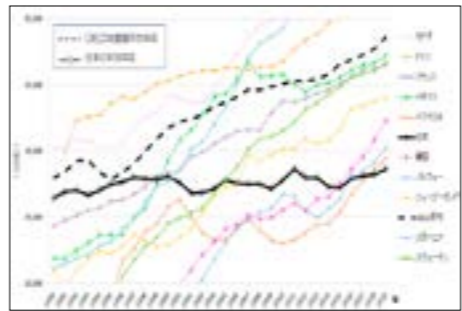
とりわけ日本はその面では世界の先頭に立っていた。しかし、インフレの上昇に伴い米欧州は「出口政策」に舵を切りつつあるが日本はそんなそぶりもない。あるいはできないでいる。

日本では岸田新政権が登場したが、経済政策に限定すれば「アベノミクス」の継承で成長を勝ち取る」と主張。その「成果」でもって「分配」をするというのだから「延長アベノミクス」はあまり反庶民的に思える。しかし、ともかく「アベノミクス」は温存された。

そのこともあってか、また、アベノミクス批判がエコノミストたちからも沸き起こっている事態もあってか、いずれにしても安倍晋三やアベノミクスの「理論的支柱」＝当時の内閣参与・浜田宏一が続げざまに講演(発言録・朝日)



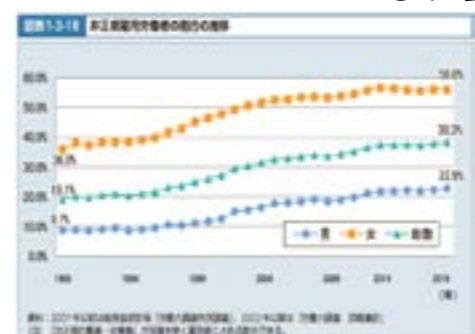
▲東京新聞より



▲出所『銀行員の教科書』有業者数を反映した可処分所得の推移。一人当たりの可処分所得は全般的には右肩下がりの傾向だ。



▲出所『銀行員の教科書』



やマスコミ(プレゼンントオンライン)などに登場して「反論」と「アベノミクスの成果」をアピールしている。

■アベノミクスは「500万人の雇用を生み」成功したか？

浜田宏一はアベノミクスの当事者だ。彼が持ち出した統計はあまりに短期すぎる。中・長期の円為替相場の深刻な下落には触れないのは見え透いた誤魔化しだ。つまり、「異次元金融緩和」による短期的な「円安効果」を強調するものだ。それ以前からの「円安」傾向をさらに決定づけたアベノミクスが、産業の衰退と日本の労働力の安売りによって貧困を固定化したことは見えにくくしている。恣意的な「ぼろ隠し」だ。

とはい え、アベノミクス

は「500万人の雇用を生みだす」成功したと自画自賛する点には反論しておきたい。

安倍首相の八年間は、団塊の世代がリタイアはじめ、労働者人口が急速に減少するという明治以後の日本近代化社会では初めての事態だった。失業率の低下はその側面が強い。そのうえ「グラフ・時間当たりの賃金比較」統計や「グラフ・平均年収比較」統計のように日本の国民の平均所得はOECD諸国で最悪の低迷にとどまっている。アベノミクスの実態が明確に現れている(もちろんアベノミクスだけの問題ではないが)。これを少なくとも「成功」などと強弁できるのだろうか？つまり、子育て中の母親や専業主婦であったような立場の人も、学業期の子供たちも家計の穴埋めとしてパートや非正規雇用を身を投じるしかなくなつたという「雇用拡大」なのだ。

そうなのだ。安倍首相の首相在位期間である2013～20年の間、長期化する貧困と家計のやりくりの行き詰まりの結果として、「雇用者」が不意ながら増加したに過ぎない。給与が少しは上がったとしても消費税や社会保険料や教育費などが増大し「可処分所得」が徐々に低下するのでやむなく働き出る人が増えたのだ。「グラフ・世帯の有業者統計」を参照すれば特にアベノミクスの二年目以降「家庭内有業者数」が目に見えて増大する。つまり、国民の長期にわたる貧困化の一つの結果として子育て中の若い母親も、本来なら学業期の子供たちも、「老後」のはずの六十五歳以上の高齢者も、不意ながらパートや臨時雇いなどの職業に就くしかなくなったという苦しい現実の反映なのだ。(女性や非正規雇用の差別的賃金と差別的雇用形態がそのまま温存されながら)。それを「雇用増大」アベノミクスは成功した」などと言うイェール大学の学者(浜田宏一)は何も見えていないか、それ

ともあからさまな嘘をついている。確かに資本にとれば人手不足になつてもおかしくない時代にもかかわらず「安い雇用者が増えた」とホクホクなのだろう。資本家から見ればアベノミクスは確かに成功なのだ。アベ政治の本質が如実に現れている。

■「日本はタイタニック号ではない」By 安倍晋三

安倍晋三の「日本は(タイタニック)のように沈没しない、国債は売れている」という話は、かなりの嘘だ。「売れている」のは半分近く(約45%)を日銀が買い込んでいるからだ(量的金融緩和)。もし、日銀が大量購入しなければ、日本の国債はだぶつき金利は高騰し、価格は暴落する。だから日銀が買うしかないのだし、事実、大規模に買い込んでい。と言うことは国債が「売れている」のではなく政府の(子会社)である日銀に指示して買わしているだけなのだ。こちらら

誤魔化しのレトリックだ。さらに、連結決算で日本政府のバランスシートを見れば(財務省は認めないが)、日銀は政府の(子会社)なので「借金の半分は帳消しとなる」。この理屈は高橋洋一が唱え始めたのである。経理や財務の視点なら「なるほど」と思う人もいるかもしれない。

しかし、日銀は「通貨の発行者」だ。政府も含めて「連結で見れば健全財政」と言つて済ませるか？財政法第五条で、いわゆる財政ファイナンス(日銀の国債直接引き取り)を禁じたのは、戦前・戦中の苦い経験に理由がある。金(きん)が唯一の国際通貨であった時代だ。日本国債の野放図な発行↓日銀購入↓「円」の大量発行がインフレ(金貨幣に対して円が減価する)のは不可避だ。そしてそうだった。現代でも実態は同じだと言つてよい。

違いがあるとするれば、現在は金本位制ではなく、金貨幣が流通していない。管理通貨制度と国際的

為替取引が――変動著しいが――なんとか国際的商品・資本取引をこなしている。では、万

■日本国民を待つ過酷な運命、堪えるのか抗うのか？

えはすぐわかる。言うまでもなくいずれも不可能に近い。仮に実施されれば、株価は暴落し景気は後退し、社会福祉は一層削減され、暴動や犯罪が多発するだろう。革命かもしれない。

らなのだ。国家権力をもつてしても対処のしようがない。だから、政府はこれまでのグズグズの政策(日本ではアベノミクスと言う)から抜け出すことはできない。新年度に待ち受けるものは一層の物価上昇と雇用の不安定だ。日本資本主義は庶民の頭に過酷な運命を押し付ける。(アベフミアキ)

## 対置すべきは《アンチホームレス社会》

昨年10月に就任した岸田首相が《新しい資本主義》を打ち出している。有識者会議もスタートさせた。当初、分配優先を語っていたが、い

りあえずこれが岸田首相の《新しい資本主義》の包括的なプランとなつている。

### ◆《新しい資本主義》の無内容

の真意が替ダンピングであり、つまり日本の労働力の「大安売り政策」であったことを明白に示している(「日本資本主義の衰弱とリフレ派の凋落」ワーカーズ625号参照)。日本の輸出企業

のみの利益を図る政策だということになる。

## 《新しい資本主義》

岸田首相は、総裁選や首相就任に当たって《新しい資本主義》を掲げてきた。新内閣の組閣では、山際大志郎経済財政担当相に新しい資本主義担当相を兼任させた。特別国会での所信演説では、コロナ対策に続く第二の政策として《新しい資本主義の実現》という柱を打ち出している。と

そこでの問題意識は、歴代自民党政権の政治が深刻な貧富の分断や格差社会を招いたことをふまえ、健全な中間層を増やし、気候変動など地球規模の危機に備える、というものだ。コンセプトとして当初は「分配なくして成長なし」と語り、有識者(？)による「新しい資本主義実現会議」も創設した。

その《新しい資本主義》の両輪は、成長戦略と分配戦略だ。成長戦略としては、科学技術立

ついている。

資本主義体制が最終的に勝利した、という体制間競争の文脈のなかで語られたものだった。

### ◆《新しい階級社会》の到来

岸田首相が《新しい資本主義》を強調するようになったのはなぜか。

本は、新たなフロンティアとして金融取引市場を開拓した。しかしその新市場は、新たな価値を生み出すわけでもない市場だ。そこは金融取引で利益を上げるという、経済の金融化、要するにマネー資本主義、カシノ資本主義の世界だった。

打ち開ける必要の認識だろう。

他方では、一部の富裕層や企業に富が集中・滞留し、中流層が痩せ細るとともに貧困層が増え続け、格差が拡大し続けるという分断構造が深まっている。いわゆる「新階級社会」の到来だ。いまはその分断構造への反発が政権や支配階級に直接向かつてはいないが、このままの事態が続けば、いつ大衆が富裕層や企業、政権に反旗を翻すか分からない。そうした危機感が背景にある。

10月には「新しい資本主義実現会議」の議論も始まったが、まだ議論の行方は定まっていな。そもそも岸田首相のスタンスもフラ

の超大国となった米国一極覇権体制が確立したときだった。そのときは「社会主義体制」が敗北し、







## 「賃労働の系譜学」フォーダイズムからデジタル封建制へ

今野 晴喜氏著青土社 二〇二二年十一月刊

○現代日本における「ブラック企業」「過労死」「労働の質の劣化」は目を覆うばかり。労働環境はなぜ改善されないのか。賃労働の系譜と構造を明らかにし、労働の視点から現代日本の資本主義社会とその行く末を読み解く。そして労働者の生存と尊厳を守り、自由を獲得するために何が必要なのか、又何をなすべきなのかを明らかにする本である○

### 系譜学とは

本書は、『ブラック企業』等のベストセラーで知られるNPO法人ポッセの代表であり、駒澤大学等の講師でもある今野晴喜氏の最新刊である。総ページは三百四十ページの大著である。ここで本書の表題に使われ

ている系譜学とは、ニーチェの系譜学をミシェル・フーコーが復権させたもので、その核心は真理には歴史性が刻印されているとの強調にある。

今野氏も、現場の労働問題から出発し、日本社会の本質を解き明かそうとする本書の企ては、『賃労働の系譜学』に込められているとした。いうまでもなく「賃労働」とはマルクスによる資本と労働を分析するための鍵概念だが、一般的には「搾取」を説明したものと考えられてきた。だが今野氏は、実はより本質的には労働の「従属」に迫る概念であり、今日の労働分析に欠かすことが出来ない概念だと解き明かす。まさに系譜学である。

そして現代の資本主義経済における資本と労働の根本的变化を捉えたものこそ、フォーダイズムからデジタル封建制である。デジタル封建制とは、フォーダイズムが労働を規格化し等質化した上で経済規模の拡大をめざしたの対し、労働が富を拡大するのではなく富裕層への富の収奪が経済の中心となる社会、あたかも「封建制」への帰帰様相を指す。

この言葉は日本でこそ馴染みがないが、デジタル・エコノミーが発展する海外では、デジタル／テックノ封建制は急速に人口に膾炙しつつある。今後日本でも一般化するだろう。

### 本書の構成

ここで本書の章立てを目次から紹介しておく。

はじめに  
第一部 日本型資本主義と労働の現在地  
第一章 「ブラック企業」はなぜなくならないのか？  
第二章 日本型資本主義社会と「ブラック企業」  
第三章 「ブラック企業」が資本



そうした対抗運動・対抗勢力の不在など、状況自体が帯びる限界性のゆえに、具体的対抗策の場面になると、研究者・専門家による提言がピンとがばやけていたり、脇道にそれしてしまうこともあった。

対抗策のリアリティ、実現可能性を考えると、どうしてもそうならざるを得ないだろう。

かつてNAM（ニュー・アソシエーション・ムーブメント）を主催した柄谷行人は、『可能なコミュニケーション』では労働運動への幻滅から「消費者としての労働者」とか「資本への対抗運動の場を生産過程ではなく流通過程にシフトすべき」だ、と述べていた。その柄谷は、『世界共和国へ』では、国際連合を土台とした世界共和国を対置するに至る。

『資本主義の終焉と歴史の危機』の水野和夫は、G20などへの期待だ。先進国家が結集して強欲マナー資本主義を規制する、という政治・国家への期待感だ。

米国の特権階級に対抗する一連の抗議運動「オキユバイ運動」では、最も裕福な1%の特権的富裕層に對して、99%の大衆を対置した。これは数の対置だ。『21世紀の資本』のトマ・ピケティは『累進的所得・資本課税』を対置した。齋藤幸平『人新世の「資本論」』では、先進的な3・5%の決起を呼びかけている。

これらは実働部隊の低迷などを受けた、それぞれ苦心した対抗戦略・対抗勢力ではある。

同じような対抗戦略・対抗勢力は、と言われれば、私は『占有補助者から占有者への飛躍』を対置したい。言い換えれば、現実的には『労働者階級の規制力の強化』であり、労働者が生産手段の所有者になることなく、労働者が労働者のままで『労働者による所有・経営・労働を同時に担うこと』を実現することであり、また労働者による『経済システムの自主管理』に通じるものでもある。これは労働者としての日々の闘いと取り組みという日常の闘いの延長線上にあるものでもあり、重なるものでもある。

かつてのマルクスの左派は、生産力の発展の延長線上での社会主義革命を展望していた。生産の社会化が究極まで進む（エンゲルス『空想から科学へ』）と考えられていたからだ。が『人新世の「資本論」』の齋藤幸平は、『潤沢なコモング』『脱成長コモング』を提起する。まったく同感だ。

いずれにしても実働部隊の強化が不可欠だ。研究者・専門家との協同、私たちとしては、なによりも労働運動の再構築など、古くて永遠の課題でもある。実働部隊の強化・拡大を追求していきたい！（廣）

で構成されている。

### 本書の核心

紙面の関係もあるので、今回は今野氏のお薦めに従いたい。それは「本書の表題に興味を持っていただいた読者には中間を飛ばして、第一部と第四部を続けて呼んでいただけでも意味を理解できるとの指摘である。なんと又率直で大胆な提案ではないだろうか。

第一部では、日本における雇用調整機能を持たされた非正規雇用労働者の一貫した増大とその後増加し継続する日本の労働問題となぜブラック企業がなくなるのかを論じ、資本主義と「ブラック企業」との関係、とりわけ日本社会と「ブラック企業」の深い親和性を論じる。こうした資本への従属に対する日本の労働者の「自発性」は、労働組合の形骸化とそ

の下での労働者の個々分断化の現れと理解できる。そしてこれを日本社会全体のものとしたのは、利潤率の傾向的な低下による日本資本主義の行き詰まりとその下でのサービス産業化の進展である。こうした中でこそ、例えばワタミを救世主とする、「ブラック企業」論が真顔で論じられるほどの倒錯意識等が生じたと論じられるのである。

このように、本書は四部十一章

歓迎したい。そうした研究者・専門家と私たち実働部隊の協同の活動の上で、岸田首相の『新しい資本主義』との対抗軸と対抗戦略を早急に打ち立てていきたいからだ。

とはいえ、研究者・専門家に全てを委ねておくだけでは闘いは拡がらないし、進んでいかない。現にこれまでも多くの研究者や専門家と言われる人たちの先進的な研究や提言が行われてきた。しかし、必ずしもそうした研究や提言が大きく拡がったわけではないからだ。相互発展的な関係が最善であるとしても、それがなかなか実現しなかったのが、これまでの経緯だった。

第四部は、本書の核心である。そして本書の最終章の第11章こそはその結論となる。端的に書こう。今や、資本と労働の対決軸は、これまでのような「新自由主義対社会民主主義」の構図ではなく、「デジタル封建制対コモンの再建」という新たな対決軸が形成されつつあるのだと今野氏は指摘する。現実にも「デジタル封建制」ないし「テックノ封建制」は、経済のデジタル化等により生産力を拡大させるばかりでなく、新たな生産手段の独占により直接の商品生産によらずに富を資本に移転させる手段となっている。即ちその経済の特徴は、富の拡大等ではなく富の収奪と移転がその中心となることである。

こうして労働の現場は益々悲惨なものになっていく。ギグ・ワーカーの労働は、あまりにも安い報酬と事故への補償もない富裕層への「奉仕労働」の性格を露わにしている。現在、新型コロナにより「デジタル／テックノ封建制」はさらに拡大・浸透する一方である。

### 自覚的な労働運動が不可欠

このような労働社会の「デジタル／テックノ封建制」化には、「コモンの再建」をとの「対立軸」を必要とする。私たちは労働者の共同性を拡大し、新たな「経済民

主義主義」を実現しなければならぬ。それには労働運動と地域運動、これに裏付けられた政治・社会運動の結合によって希少化された（即ち商品化された資源、生産資本主義的経済関係へのオルタナティブとしてめざしたものである。その意味では古いのである。が、今又再注目されて英国労働党のコービン路線がそれを復活させて追求している。

さらにこの路線は社会の運営能力を取り戻すことをめざしている。さらにはこの路線は社会の運営能力を取り戻すことをめざしている。

本書の結論はまさにこの一言である。読者の皆様へもぜひ一読を薦めたい。（直木）

## 海をあげる

（上間陽子著作）

沖縄の上間陽子さんの作品「海をあげる」が、全国の書店員の投票で選ばれる「2021年ノン

フィクション本大賞」を受賞し、多くのマスコミに取り上げられた。NHK放送でも琉球大学教



授・上間陽子さんの「海をあげる」が取り上げられて「生活視線で描く沖縄問題」と紹介されていた。東京都内で

開かれた発表会と授賞式で上間さんは「この賞は私が受けたのではなく、沖縄に対する賞であり、沖縄でしんどい思いで生きている子たちへのはなむけのような賞だと思っています」との挨拶。

「海をあげる」は、上間さんが幼い娘や家族との生活、若年出産した少女らの調査と支援を続ける中で感じたことなどを記した自身初のエッセー集。沖縄の人々の日常に入り込む基地問題や、政治や権力に踏みこじられる状況もつづられている。

基地があるゆえの問題を抱え続ける沖縄。「海をあげる」は何よりも『アリエルの王国』という章のために書かれた本だといえる。小さな娘のそばで沖縄を生きる痛みを、どうしたら本土の、東京の人たちに伝えることができるのか。本をまとめるとき、私はその1点だけを考えました」と上間さんは述べている。

私が上間さんを知ったのは、「裸足で逃げる／沖縄の夜の街の少女たち」（貧困と暴力と隣り合わせで生きる基地の町・沖縄の少女たちの記録）の本でした。琉球大学の教育学者として「生徒指導」を専門にする上間さんは2012年から、キャバクラなどの風俗業で働く沖縄の少女たちの調査を続けてきた。

14歳でガールズバー、15歳



でキャバクラ・・・働き始めた年齢が低く、多くが交際相手との間にできた子どもを十代で出産していた。

2017年から21年まで「若手出産女性」77人インタビューしたところ。3人に2人は親やパートナーなど身近な人から暴力を受けていること。妊娠が分かっても病院に行けず、友人の家を転々としたり、住宅団地の階段下で眠っていたり、想像を絶する体験をしていた事を知る。「この少女たちのことが見えていなかった」と上間さんは愕然としたと言

上間さんたちは、10月に安全に出産できない若いママたちを守る「民間シェルター」（おにわ）をオープンし運営を続けている。

先の大戦で激戦地となった沖繩は、戦後27年間も米軍統治下に置かれ、新しい憲法も女性や子どもを守るための国内法も適用されず、家も仕事も満足になく、生きるために風俗業で働かざるを得ない女性が生まれた。

1972年の本土復帰後も、米軍基地が地域の発展を阻む形でのしかかり、行政も貧困問題に向き合う余裕すら奪われてきた。

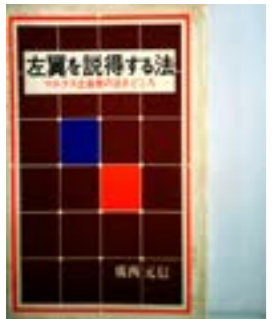
22日（水）の東京新聞は「財務省が2022年度の沖繩振興予算について、前年度比で607億円的大幅削減（20%超の減額）

私は一年浪人し、東大の安田講堂攻防戦・連合赤軍のあさま山荘事件等の報道に釘付けとなる。

私は抗うことも出来ない、まさに時代精神の息吹に強い影響を受けたのである。

一九六九年に中大入学後、全中闘（他学では全共闘というところを中大ではこのように呼んでいた）の闘いに反発した私は、新たな道を求めて全国社研の出版物を取り寄せてその主張に惹かれていく。そして社会科学理論研究会を立ち上げ、中大中庭で入会者を勧誘する活動を開始する一方、全国社研に入会し川崎駅前で定期的な街頭演説を開始した。その後、マルクス主義労働者同盟神奈川県委員会の結成に参加した。他方では理論追求の一環として神田のウニタ書舗に週三程度通うことになる。

そこで見つけたのが、一九六六年に出版された廣西元信『資本論の誤訳』（青友社）である。何度か立ち読みし、結局、理解不能の部分がありながらも、私はその明確な指摘に強く惹かれて購入した



となる2403億円とする案を提示したことが分かった」と報じた。ところが、一方の新辺野古基地建设の総工費は約9300億円（実際は2兆円位かかる）と想定されているが、大浦湾の軟弱地盤の問題があり専門家からは基地完成は見込めないと指摘されている。

## 私の来し方行く末

私も古希を越えてしまった。そのためししばしばこれまでの来し方を振り返ることがある。平々凡々たる私の来し方を戦後日本の時代の子として捉えて貰えれば、と考える。

### 山形県上市から神奈川県川崎市へ

朝鮮戦争が始まる年の二月に、私は山形県上山駅前広がる矢来町で生を受けた。

その当時、上山地区の副議長は父は徹夜に渡る労使交渉の真っ最中のため、出産に立ち会うことは出来なかった。同地区区の議長は母の姉の連れ合いである伯父で

今、政府に求められているのは沖繩に基地建设を押しつけるのではなく、沖繩県民の生活向上をめざす沖繩振興予算を充実させる事。上間さんの作品「海をあげろ」は、その事を指摘していると思う。

（富田英司）

あった。当時、伯父の親戚には多くの共産員がいて、その後レック・ページにあう。伯父は当時農民歌人・結城哀草果の弟子の教員だったが、党員でなかったのだった。伯父の師は斎藤茂吉の弟子、つまりは茂吉の孫弟子であった。私の父は労働争議の末に社長を退陣に追い込んだが、そのため退社することになってしまっ

た。その転出先は当時京浜工業地帯の中核であった川崎市であり、住んだのは川崎の南部にある昭和町であった。

私は幼児期、隣の川崎大師の境内で遊んだ。数年後の幼稚園と小・中学校時代には、横浜市鶴見区矢向駅から歩いて十分ほどの戸手本町に新築されたばかりの市営住宅街で複数の友人を得、特に隣

家の子と道を隔てた家の子とは仲良しだった。

一九六六年、私は鶴見区から多額の寄付を受けたことで出来た旧制中学が元となった県立川崎高校に入学した。当時川崎市には三十三の中学があったが、その全部の学校から生徒が集まったという話には驚いたものだった。川崎市は神奈川県最東部に位置し、かつ南北に長いとの特徴があり、電車でも片道一時間半はかかったからだ。高校も中学と同じく一年は十クラスもあり、私は

のきつかけは中学時の吹奏楽部の先輩二人が生物部員であり、勧誘に際しては私に対して「川高のクラブはアメリカンスクールとの付き合いがある不良がいるから」入るのはやめろという強い説得だった。

その当時の川高クラブの名物男とは、その後加瀬邦彦とザ・ワイルドワンズのドラマーである植田芳曉氏である。彼の

本名は大串安広で、当然にも川高の文化祭では大活躍。その上、彼は英語が得意であり、文化祭の舞台ではそれで通していた。彼のバチさばきは派手であっ

た。全面的介入を行った。にもかかわらず県組織の多数派を守りきった私たちを排除するため、翌年には政治局主導で同盟規約を改正した。それにより一級上の組織は下部組織を処分できる。党内闘争の果てに私たちは除名された。こうして組織から切り離され失意の生活が始まった。私は自立するため、マルクス等の理論的な研鑽に励んだ。その数年後には私の意気は再び軒昂となり、嘗ての指導者林何する者ぞと考えつつ大いに発憤したのである。

六浦から横浜市栄区桂町へ

両親が定年のため、六浦に戻ってくるようになった。私たちは栄区桂町へ転居した。

この頃、偶然黒田寛一『資本論以後百年』を読んだが、注解にて廣西元信の名前が出てきたので、大いに驚いた記憶がある。あの黒田もまた廣西を明確に意識していたのである。

桂町には十年住んだ。そして子供も二人になった。家族四人生活



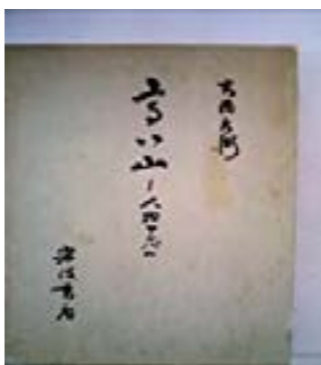
た。まさに当時の私たちから見れば、彼はキザな不良そのものだったからである。

### 川崎市から横浜市金沢区六浦へ

当時の生物部の部長は生徒会の会長でもあった。彼は横須賀港への原潜寄港に反対するデモにも参加していた。私もその話は聞かされてきた。もう一人の先輩からは河上肇の『貧乏物語』旧版文庫の裸本を貰った。表題には青で《べんぼうものがたり》との振り仮名が振ってあった。実に不思議なことながら、今でもこのことは記憶に鮮明に残っている。

高校一年の九月末に私は横浜市金沢区六浦へ転居した。約一時間半程度の電車通学が始まった。そのため、私は途中の横浜駅で下車し有隣堂横浜西口店に、週回か本を物色することがルーティンとなった。

それこれも『貧乏物語』により、社会問題に開眼したこと



は楽しいものだった。私には廣西の克服の目的が立たないでいた。まだまだ力不足で手を焼いていたのである。

桂町から金沢区六浦南へ

両親から老年のため、近くに住んでくれとの要請を受け、開発中のマンション群に住むことにした。数年後には全戸で六百弱の戸数となる。近隣では注目の一大団地となった。

十坪の専用庭がある我が家の居住性は良好であり、何より書齋が確保できたことはよかった。数本の本棚を立て、本に囲まれた生活は快適だった。子供も庭でキャンプをしたり、バーベキューをしたりで楽しかったようだ。妻も部屋が広くなったことに満足していた。

私の研鑽も、福富他『社会主義と共同占有』、西野勉『経済学と所有』『経・哲草稿』から『資本論』―を入手し、漸く廣西理論



関係がある。私には知識欲が同級生より強いとはつきりとした自覚があった。

私の高校時代の愛読書に大内兵衛の『高い山―人物アルバム』がある。大内兵衛の軽妙洒脱な文章を読むことで、私は大原孫三郎や柳田民蔵や久留間敏造の名前を知ることになる。こうして私は大原美術館やマルクスや柳田等に興味を持つようになっていくのである。

一九六七年は『資本論』刊行百年のため、岩波書店から通常より五百円安い三千二百円で発売された。私は買ったが、勿論途中挫折した。同年四月十五日、京都奈良への修学旅行で十クラス中唯一名古屋の東山動物園に立ち寄った我がクラスは、車中で美濃郡都知事当選のニュースを聞くことになる。拍手が巻き起こり、皆は喝采した。川高の定時制は川崎市の民青の拠点であった。私の卒業の翌年に川高は紛争に突入し自殺者を出した。

その意味では、一九九四年七月に出版された田畑穂『マルクスとアンチエーション』は、本当に私の目を開かせた本であった。彼は、一時期鷲田小弥太とともに活動し、日本の声の志賀義雄や森信成らを理論的指導者とする『知識と労働』誌の編纂者、つまりソ連派でありながら村岡到を通じて知った廣西元信との理論的な格闘を続けてきたことは、この本を一読すればその論旨に明らかであり、事実注にも廣西の名前を明記した箇所がある。

かくして先人の苦闘に満ちた成果を踏まえ内心忸怩たるものがあるものの、ワーカーズの仲間とともに私は『アンチエーション』革命宣言』を出版することが出来たのである。

### 今後の行く末

私の来し方を今振り返れば、山形県上市市から何回転居してきただろうか。思えば本当に遠くまで来たものだ。転居は一ヶ月いかなかった所も含めれば、実に十回にもなる。後一回は転居することになるだろう。これが私の来し方行く末である。（直木）



# 私がマン・シエーション社会を確信したとき

## ■「助け合う人の本能」の

「人はなぜ助け合うのか」人の心を進化論で説明する」（『ダイヤモンドオンライン』）という記事を最近読んだ。

「助け合い、というのは、人間だけが持っている尊い感情ではない」「ウィルキンソンは、コストリカの洞窟でこのチスイコウモリの集団を観察しましたが、満足に血を吸えなかった飢えた個体が、満腹の個体に餌ねだりの行動をする場面を目撃し、ねだられた個体が飢えている個体に血を吐き戻してやることを発見しました（Wilkinson、1984）」と。

吸血鬼ドラキュラのネタ元である吸血コウモリは、実は仲良しで相互助け合いをしていた。これらを互酬性（reciprocity）という。こんな例は実は自然界に豊富にある。ブラック・パンサー党の異端の生物学者R・トリバース著『生物の社会進化』にはこの互酬性の事例がてんこ盛りとなっている。それに先行した戦前のクロポトキン『相互扶助論』は互酬性の事例を集めた古典といえよう。

集団性・社会性のある動物はこ

のように互酬性を持つケースが少なくない。人間はまさにこの典型だと言つてよい。六百万年前にチンパンジーの「共通祖先」から分離した人間の祖先（ホミニン）は、この互酬性や協同性を軸にして社会集団を発展させるように進化した。

ホミニンの一列に位置する我々ホモサピエンスは特にこのような質を高めて大きな社会集団を構成した。これが人間社会の本質だ。

現存する最も原始的な社会段階であるバンド社会（狩猟採集民）の共同社会は、この互酬性に根差したものだ。互酬性は、あくまでも「互恵」であり対等性を前提としており、滅私奉公のようなものではない。節度ある相互助け合いが社会の健全性を保証する。警察も軍隊も監獄もないのに、社会が平常に運営される人間社会はかくして成長してきた。

## ■「助け合い」は狭い範囲にとどまってきた

アソシエーションの話が出てこないが？

そんなことはない。狩猟採集民ですら彼らの共同体「バンド」を

超えた呪術師アソシエーション（笑）や武術アソシエーションその他を持つ。これらは『未開の社会組織』E・R・サピエンス（彼の用語法ではsocialityと言う）に詳しい。だが、まだまだ「バンド」を超えた幅広い連帯は少ない。

アソシエーションの拡大の条件は直線的に形成されてきたわけではない。人類史はその後の歴史として氏族・部族（連合）社会の長い時代を生きてきた。欧米諸国やアジア諸国が「近代産業社会」に

足を踏み入れても、世界の多くの人々は部族原理や農業共同体原理の中で人間の協同的能力を踏まえた伝統的に育まれた自治社会組織を維持している。それは、例えばアフガニスタンに見られるような伝統的社会だ。当然、その人間的本性を土台とした血族集団や地縁集団の文化や価値観は、理解され最大限に尊重されてしかるべきものだ。しかし、ここではこの問題には深入りしない。

自立した人々の自発的連帯が多数生成し大きな社会的意義を持つようになったのはやはり近代社会においてである。

例えば「移民の国」アメリカの人民的統治だ。のちの仏二月革命（1848年）の際には革命政府

POなど非営利経済組織が先進諸国では労働人口の5%に拡大している」と書いたのが20世紀末の事だ。彼はそれを「アソシエーション革命」と名付けた。

「アソシエーション」の言葉と概念は、十八世紀の仏の思想家ジャンジャック・ルソーが見出したと言われるが、本来、思想でも哲学でも宗教でも単なる経済学でもない。ホモサピエンスの持つ協力共働行動の現代的な在り方である。

サービスの再公営化や地方公営企業の設立、公営住宅の拡大、地元の再生可能エネルギー、市政の透明性と説明責任の強化を推進する。つまり公益とコモンスの価値を中心に置くこと、さらに創造的な市民の政治参加によって市民権を拡大する過程を重視する。また、さまざまな方法で直接民主主義的な実験を積極的に行っている。英国ではコービン党首の誕生（15年）と切つても切り離せないのが、若者を中心とした労働党の草の根運動の組織「モメンタム」だ（「ミニニシパリズムとヨーロッパ」など、岸本聡子）。

彼らは「気候危機」や「グローバル・サウス」問題にも取り組む。自覚し連帯する市民が多数現れば、水道事業、発電事業、港湾、鉄道、道路水路の管理建設など公益事業は、コモンとして管理運営する要求が高まるのは不可避だ。選挙で戦い取れるものもあるが、そうでない場合もある。大切なのは広がりゆく連帯だ。

欧州ではバルセロナ（スペイン）、ナポリ（イタリア）、グルノーブル（フランス）などの自覚した市民勢力が市政の運営を担い、自治体が「ミニニシパリズム」（municipalism）とこう言葉を用いてつながりを強めている。新自由主義を脱却して水道事業の民営化などを中止し、公共

サービスの再公営化や地方公営企業の設立、公営住宅の拡大、地元の再生可能エネルギー、市政の透明性と説明責任の強化を推進する。つまり公益とコモンスの価値を中心に置くこと、さらに創造的な市民の政治参加によって市民権を拡大する過程を重視する。また、さまざまな方法で直接民主主義的な実験を積極的に行っている。英国ではコービン党首の誕生（15年）と切つても切り離せないのが、若者を中心とした労働党の草の根運動の組織「モメンタム」だ（「ミニニシパリズムとヨーロッパ」など、岸本聡子）。

じように占有者は所有者に歴史的に移行する。つまり、工場であれ、配送センターであれ、病院であれ、タクシース会社であれレストランであれ、そこで働く現在の労働者こそが占有者（潜在的な所有者）だ。この理屈に準じて家屋を住居として利用する者が占有者である。

占有するものこそ真に未来の所有者であり、それを実現するのが社会革命であり、我々もその人類史に喜んで従おう。こうしたアソシエーションによる共同統治と共同所有を目指す幾多の運動の連帯や国際連帯が一層求められている。

「所有とは労働である」と喝破したのが十七世紀の哲学者ジョン・ロックだ。個人の生産と個人的所有に基づいてかく述べた。だから今やこの言葉を訂正しなくてはならない。

共同労働に基づく占有者は共同所有者になる、いや、そうなるべく闘う。

## ■「今だけ金（カネ）だけ自分だけ」⇨物象化を脱ぎ捨てる

資本の論理は過酷なまでに人心を支配する。経営トップに「仏ごころ」があれば、他社との競争に敗北するだろう。ファンドマネー

の外務大臣となる、若きトクビルが当時（1831年頃）の新社会アメリカをー集権的で官僚的なフランスーと対比して感動をもつて活写したのが名著『アメリカのデモクラシー』の価値ある部分だ。

「アメリカの人々は何かあれば自分で解決する。橋が落ちたとすれば、みんなの資材や労力で復旧させる。ところがフランスならば役所に連絡するだけなのに」云々と。トクビルは当時のアメリカの自治的民衆力を目撃したのである（人種差別問題などはここでは問わないとして）。

アソシエーションはこのように人間の社会的本性という進化的土台の上で、歴史的に形成され成長するものだ。

## ■日本のアソシエーションを確信した3・11大震災

阪神・淡路大震災（1995年）時のボランティア活動が大きく注目された。震災後、大阪方面から震源地の神戸方面へと線路伝いに大勢の人びとが徒歩で支援に参加した。ボランティア元年など言われたが、人間の連帯行動が大きく現れてきた。

さらに私自身も渦中において体験した3・11大震災。役場も警察も消防も動きが停止し、あるい

は津波災害の救援として海岸線に移動した。かくして内陸や市街地はこのような役所機構は機能せず民衆は自治的に助け合うしかなかった。食料確保も自立ボランティアの組織の活動で担った。というより被災者はおのずからその役割を担った。運搬、分配、自警団・スムーズではなかったが、自治行政を一時期でも民衆が直接担うのは日本ではまれなことだ。

外部からの支援やボランティアが三週間目には大勢やってきた。おおいに励まされたことを忘れることはない。

では自衛隊や米軍は何をしていったのか？確かに彼らも復旧活動を担った、とはいえ仙台空港や仙台港など「拠点」と幹線道路の復旧作業が中心であったと記憶する。それから数か月、復旧復興の主導権は県や行政、ゼネコンなど旧利権が握っていた。

は津波災害の救援として海岸線に移動した。かくして内陸や市街地はこのような役所機構は機能せず民衆は自治的に助け合うしかなかった。食料確保も自立ボランティアの組織の活動で担った。というより被災者はおのずからその役割を担った。運搬、分配、自警団・スムーズではなかったが、自治行政を一時期でも民衆が直接担うのは日本ではまれなことだ。



んなものに「便利だから」「生活スタイルに合っているから」と身を寄せていると身ぐるみはがされる。このような資本のマインドコン

## 森友訴訟の幕引きに疑い…なぜかな？

森友学園問題に関する財務省の決済文書改ざんを苦に自殺した財務省近畿財務局の元職員赤木俊夫さんの妻雅子さんが、国と同省理財局長だった佐川寿元元国税庁長官に損害賠償を求めた訴訟の進行協議において、なんと国は約1億円の賠償請求を受け入れる書面を提出した。

この突然の終結に対して雅子さんは「不意打ちのようなやり方だ。国は国民に対しても夫の死の原因についての説明責任がある。非公開の場で臭い物にふたをするようなやり方は、ひきょうだ」と憤った。

このように国が責任を認めたとはいえ、いきなりこの森友訴訟の幕引きを図るのは、この森友学園問題の当事者である安倍元首相や、さらに菅元首相、現在の岸田首相にとつても明らかにしたくない不都合な真実がある



まったくひどい幕引きである。ここまで政権は腐っているのか？と思腹が立つ。

赤木さんの妻雅子さんが、国と財務省理財局長だった佐川元国税庁長官に損害賠償を求めた訴訟に踏み切ったのは「自分の夫がなぜ自殺したのか？事実を明らかにしたい」との解明を求めた訴訟だった。

国側も請求棄却を求めて争ってきたのに、ここに来て突然と態度を一転させ、「改ざん指示への対応を含め厳しい業務状況に置かれる中で自死に至った。」と国の責任を認め、賠償金約1億円でこの訴訟をチャラにするとは、あまりにも汚いやり方である。

このように国が責任を認めたとはいえ、いきなりこの森友訴訟の幕引きを図るのは、この森友学園問題の当事者である安倍元首相や、さらに菅元首相、現在の岸田首相にとつても明らかにしたくない不都合な真実がある



川柳鑑賞

役人の子はにぎにぎをよく覚え  
総理の子ににぎにぎの美味よく覚え

最初の句は、江戸時代の川柳です。「にぎにぎ」は賄  
略をもちという意味で、風刺が込められた庶民の川柳  
です。後の句はこの古川柳を基に、菅前首相の長男(東  
北新社)が、総務省幹部を接待した事件を風刺した私の  
句です。「美味」は、忖度の入った会食を意味します。

医療や生活支援にお金を使うべき!

大阪カジノの土壌改良に 800億円負担しようとする維新!

のではないかと疑ってしま  
う。東京新聞によると、読者から  
「こんなことであるのか。大  
変腹立たしい」「真相がはつき  
りしないまま結審させてはなら  
ない」「ここで諦めたら政府の  
思うツボ」などの怒りの声が届  
いているとの事。

はいけない。私たちは雅子さん  
を支援し、真相の究明を求め、  
権力の誤った行為に対して抗議  
の声を上げていこう!  
(団塊世代)

維新のインチキぶ  
りがあらわになりま  
す。IR、カジノに税金は  
大阪に投資してくるんです  
12月21日、大  
阪府と大阪市長がカジ  
ノ建設予定地の夢洲  
の土壌汚染対策に  
790億円かかる  
発表しました。この  
全額を大阪市長が負担  
すると。これまで大  
阪湾の埋め立て用地  
の販売でその対策費  
を市が負担したこと  
はなく、異例の支出  
となります。  
2016年におこ  
なわれた説明会で当  
時大阪府知事だった  
松井一郎・大阪市長  
は「特定の政党が間  
違った情報を流布し  
てますけど、これだ  
けははつきり言っと  
その上、松井市長は「民間事

業者が大阪に投資してくれるん  
です」と言っていたが、今回の  
対策費をカジノ事業者が1円も  
出しません。ちなみに、大阪府・  
市がカジノ事業者に選定したの  
は、米MGMリゾート・インター  
ナショナルとオリックスの共同  
グループ。オリックスといえば、  
あの竹中平蔵が社外取締役を務  
めている企業であり、竹中氏が  
会長を務めるパソナが大阪の行  
政を食い物にしているのと同様、  
吉村知事と松井市長はカジノで  
も公金によって竹中氏の関連企  
業を優遇しようというわけだ。  
当然、このような公金の使い  
方を許せませんが、さらに酷い  
のが松井市長の態度です。  
12月20日におこなわれた  
会見では、松井市長は市が負担  
する約800億円は、おもに市  
税収入からなる一般会計ではな  
く市の特別会計「港営業会計」  
から借金し、返済には用地売却・

貸付で得た収入をあてることか  
ら、「市が負担と言っても市民  
の税金で負担しているわけじゃ  
ない」と強調。どこから出そう  
と市が負担することは事実だが、  
挙げ句、松井市長は夢洲を「市  
民の財産」だとし、「市民の財  
産にいろんな課題があることが  
判明したので、課題を解決する  
のは当然」と言いました。  
たんにカジノ事業者のために  
約800億円も公金を出すこと  
を、「市民の財産だから課題解  
決するのは当然」と主張する  
。まったくふざけているとし  
か言いようがないが、さらに大  
阪府立大学の住友陽文教授が  
「800億円も公金が大阪市の  
負担ともなれば、それは市民  
共有の負担」など今回の問題点  
を指摘するツイートをすると、  
松井市長はすぐさま噛みつき、  
こう抗弁しました。

そのことを暴  
いたのは、12  
月19日付の毎  
日新聞ネット版  
の記事。今回、  
毎日が情報公開  
請求で入手した  
内部資料による  
と、6月29日  
に松井市長や市  
の幹部らが土壌  
汚染対応の検討

もおこなったが、前述したよう  
にこれまで大阪湾の埋め立て用  
地の販売でその対策費を市が負  
担したことは、ありません。  
12月21日、大阪府と大阪  
市がカジノ建設予定地の夢洲の  
土壌汚染対策に790億円かか  
ると発表しました。この全額を  
大阪市長が負担すると。  
維新は、私たちにどうして百書  
あつて一利なしのカジノにお金  
を使わず、ひつ迫する医療や生  
活に困る方々への財政や生活支  
援へお金を使うべきです。  
(河野)



松井一郎大阪市長が維新議員30人と「焼き鳥屋で大宴会」

仲直り妻の長所を簡潔書き  
不器用なあなたが好きと褒める妻  
飢餓の因素知らぬ顔の宇宙旅  
分配の元は打ち出の小槌です



炭素がレタが叱る首脳たち (云会議)  
ペンパルの文末ラブと書いてある (微妙)  
プラの海日本列島取り囲む (閉む)  
ハンセン病が耐え忍ぶ悲話語り継ぐ (昔話)  
江夏豊の二十一球語り草 (昔話)  
原爆碑今年も名前追加され (並べる)  
週末も消えぬ灯りのコロナ棟 (週末)  
爆音に夜が震える厚木基地 (耳さわ)  
続論へ悩んだ末の妥協点 (まっいいか)  
子が嫁ぎ空気を冷やす冷蔵庫 (家電)  
ときめいて聞いた赤胴鈴之助 (ラジオ)  
大物の記憶魚拓が誇らしげ (記念)  
潔白へ赤木夫人に迷いなし (白黒)  
解決の決着欲しい拉致家族 (白黒)  
金婚日子供に貰う夫婦箸 (プレゼント)  
アフガンは振り返らない星条旗 (今年のニュースから)  
女子会に飢えたマスクがよく喋る (パーティー)

暗黒司法に挑む桜井昌司、稀有な人生を生きる!

昨年12月、「えん  
罪・布川事件 国家賠  
償請求裁判 勝利報  
告会」に参加。桜井さ  
ん講演の演題は「国は  
人生奪う理不尽を知  
れ」でしたが、桜井さ  
んととって「国」とは  
警察、検察、裁判所で  
した。  
長くいた千葉刑務  
所は、死刑などで重い  
刑を受けた受刑者が  
集められているとこ  
ろ。そこでの経験、  
「4間飛車のやつさ  
ん」など受刑者と職員  
の分析をあれこれ、辛  
い獄中29年だった  
のに、実に冷静に時に  
愉快に振り返ってい  
ます。29年はムダで  
はなかったと。  
警察や検察の人間  
は真面目で頭はいい  
が、容疑者(犯罪者)  
は悪い奴、だからウソ

ばかりつく、刑務所に閉じ込めて  
おかないと「オオカミを野に放つ  
ことになる」(悪事を働く)と思  
っている。裁判官は常識がない  
、東住吉事件でガソリンをま  
いて放火という検察の筋書きを認定  
しているが、ガソリンに火をつけ  
ると爆発する。  
狭山事件では、万年筆が当初み  
つからなかったのは見過ごしによ  
るとしたが、何人も捜査員が全  
員見過ごすことなどありえない。  
袴田事件では、みぞ樽から出てき  
た衣類が血の色で赤いままとい  
うことなどあり得ない、等々。  
つまり、裁判官は警察や検察は  
ウソをつかないと思っ  
ていて、裁判官の人事を握っているのは検  
察上がりだから逆らえない、常識  
が通じない。しかも、市民も同じ  
ように思っ  
ていて、こうしたなか  
で冤罪の多発が止まらないと訴え  
ました。

証拠の開示、②検察による不  
服申し立ての禁止、③公正な  
再審手続きの整備、というも  
の。  
昨年12月5日に95歳で  
亡くなった免田栄さんは、死  
刑囚として獄中34年を耐え  
抜いて再審無罪を勝ち取りま  
したが、「人殺しをしてうま  
く逃げたね」といった犯人視  
に苦しみ、故郷に帰ることが  
できませんでした。地域社会  
のなかに冤罪を生み出す素地  
があり、しばしば生贄を探す  
警察に手を貸してきたので  
す。  
人を殺したら死刑という  
寒々しい風潮のなかに、その  
素地を見るのは私だけでしょ  
うか。  
(晴)

コラムの窓...



警察や検察の人間  
は真面目で頭はいい  
が、容疑者(犯罪者)  
は悪い奴、だからウソ  
ばかりつく、刑務所に閉じ込めて  
おかないと「オオカミを野に放つ  
ことになる」(悪事を働く)と思  
っている。裁判官は常識がない  
、東住吉事件でガソリンをま  
いて放火という検察の筋書きを認定  
しているが、ガソリンに火をつけ  
ると爆発する。  
狭山事件では、万年筆が当初み  
つからなかったのは見過ごしによ  
るとしたが、何人も捜査員が全  
員見過ごすことなどありえない。  
袴田事件では、みぞ樽から出てき  
た衣類が血の色で赤いままとい  
うことなどあり得ない、等々。  
つまり、裁判官は警察や検察は  
ウソをつかないと思っ  
ていて、裁判官の人事を握っているのは検  
察上がりだから逆らえない、常識  
が通じない。しかも、市民も同じ  
ように思っ  
ていて、こうしたなか  
で冤罪の多発が止まらないと訴え  
ました。

再審を求めるラジオ番組  
塀の中の白い花~ほんとに何もやって  
ません  
http://enzaibusters.seesaa.net/  
article/484712579.html



# 色鉛筆

## 速やかな再審開始と、袴田巖さんに無罪判決を

「認諾」・・・森友文書の改ざんを強いられ、自死に追い込まれた赤木さんの妻が「真実が知りた」との想いで起こした訴訟を、国は約1億円の賠償請求を受け入れる「認諾」によって一方的に終結させた。裁判で明らかになるはずの数々の真実を圧殺したこの卑怯なやり方は、そこにどうしても公にしたくない「真実」があることを物語っている。

突然思いつかんだことは、いま現在死刑囚のままだが、2014年から身柄を釈放されている袴田巖さん(85)も、再び収監されること

は全く無いとは言いがたいこと。権力を持つ側はこまめに非情なのだと言筋が凍る思いがした。

1966年の旧清水市の一家4人を殺害した事件の犯人とされたまま、袴田さんたちは裁判のやり直しを求めて半世紀、いまだ出口は見えない。

2020年12月最高裁は、再審開始決定を取り消した2018年の東京高裁決定に対して、審理をやり直しなさいとして「差し戻し決定」を下した。

以来一年あまりの間、東京高裁、東京高検、弁護団による密室での「三者協議」のみが続けられ、次回が3月14日と決まったという。

これは東京高検側からの、反論準備のために2月一杯は必要との主張が認められたためだということだが、弁護団の意見書による明らか事実がすでに提出されており、三者協議は一刻も早く終わりにして、速やかに東京高裁での公開での審理を始めるべきだ。検察側の反論は、そこでこそ行うべきものだろう。

諸外国に比べて日本の再審開始の扉はとてつもなく重く、開くことが難しい。それでも2回だけ、再審開始の重い扉が開きかけたことがある。

1回目は、2014年の静岡地裁による再審開始決定。これは検察の特別抗告により、2018年東京高裁の再審取り消し決定による

り打ち砕かれてしまった。もう1回目のチャンスは、2020年の最高裁差し戻し決定時、5人の裁判官のうち2人が「ただちに再審開始すべきである」と主張したこと。もしもこれが3人であれば、再審が行われていたはずで、たった1人の差によって再び扉が閉じられてしまったことになる。

今年こそ速やかに再審を開始し、無罪判決を勝ち取りたい。

先日、日本テレビの番組NNNドキュメント『無罪の死刑囚免田栄』を見た。彼は2020年に亡くなるまで、生涯郷里の熊本に居る事は無かったという。それは無罪となった後もなお消

えなかった、犯人であるという厳しい差別と偏見に耐えられなかったためだ。冤罪事件の被害者であるにもかかわらず、犯罪者としての烙印が簡単に消せないのは、袴田さんも同じで、いまだに地元では彼が犯人であると固く信じている人は少なくない。

日本の裁判制度は直ちに改めべき事が山ほどある。

再審請求には速やかに応じる事、検察による特別抗告は認めず、再審裁判の場でのみ反論させること、審理は出来るだけ速やかに行う事。もしも冤罪が生じた場合には、警察、検察、裁判所がともにその原因・経過を調べたうえで、広く社会に公表し、再発の防止を徹底すること。きちんと被害

者に謝罪する事などなど。繰り返される冤罪事件は、制度そのものに問題の原因があることの現れだ。免田さん、袴田さんをはじめ多くの冤罪事件被害者の悲しみ苦しみは、どんな謝罪でも償う事は出来ない。平穏な日々を取りもどすことは出来ない。二度とこの過ちを繰り返してはならない。(澄)

### 免田栄さんの歩み

1925年	11月4日 熊本県免田町(現・あさぎり町)生まれ	
48年	12月29日 熊本県人吉市で新とう餅一家4人が殺害されているのが見つかる(免田事件)	
49年	1月14日 別の窃盗容疑で逮捕される	
	16日 一家4人殺害事件で強盗殺人容疑で逮捕される。深夜に「自供」する	
	28日 熊本地裁八代支部に起訴される	
	4月14日 第3回公判で全無罪に転じる	
50年	3月23日 熊本地裁八代支部で死刑判決	
52年	1月5日 最高裁で上告が棄却され、死刑が確定	
54年	5月18日 地裁八代支部に第1次再審請求	
56年	8月10日 同支部が再審開始決定。検察は即時抗告	
59年	4月15日 福岡高裁が再審開始取り消し	
	12月6日 最高裁が免田さんの特別抗告を棄却	
72年	4月17日 同支部に第6次再審請求	
76年	4月30日 同支部が請求棄却	
79年	9月27日 福岡高裁が再審開始決定	
80年	12月11日 最高裁が検察の特別抗告を棄却し、再審開始決定	
81年	5月15日 同支部で再審初公判	
82年	11月5日 検察が免田さんに2度目の死刑判決	
83年	7月15日 同支部が無罪判決	
	28日 検察が控訴を断念し、無罪が確定	

1966年6月	静岡県清水市(現静岡市)のみそ製造会社専務宅が全焼。一家4人の他殺体が見つかる
8月	静岡県警が従業員の袴田巖さんを逮捕
67年8月	みそ工場のタンクから血痕の付いた5点の衣類が見つかる
68年9月	静岡地裁が死刑判決
80年11月	最高裁が上告棄却
81年4月	第1次再審請求
2008年3月	最高裁、再審開始を認めない決定
4月	第2次再審請求
14年3月	静岡地裁が再審開始決定。袴田さんは釈放。検察側が即時抗告
18年6月	東京高裁、再審開始を認めない決定。袴田さん側が特別抗告
20年12月	最高裁が高裁決定を取り消し、審理を差し戻し

